

テーマ展「武家の備えー井伊家伝来の馬具ー」展示作品リスト

| 番号 | 指定 | 作品名称 | 数量 | 時代 | 備考 |
|---------------------|-------|---|----|------------|--|
| 1. 弓馬の家 | | | | | |
| 1 | | うまのり げいづくしず 馬乗の芸尽図 | 1巻 | 江戸時代 | 中世以来、武家で盛んに行われた犬追物などの騎射の様子を描く。 |
| 2 | | おおつぼりゆうばじゆつひしよ 大坪流馬術秘書 | 5冊 | 江戸時代 | 戦国期の初頭に確立した馬術・大坪流の秘伝書。 |
| 3 | | あくばしんどうりゆうひでんしよ 悪馬新当流秘伝書 | 6冊 | 元和9年(1623) | 戦国期に始まる馬術・新当流の秘伝書。 |
| 2. 大名と馬具 | | | | | |
| 4 | 重要文化財 | おんばぐちやう 御馬具帳 | 1冊 | 嘉永5年(1852) | 彦根で管理されていたとみられる馬具の目録。 |
| ◆式正の馬具 | | | | | |
| 5 | | くろうるしぬりたちばなもんまきえくら・くろうるしぬりあぶみ 黒漆塗橘紋蒔絵鞍・黒漆塗鐙 | 1具 | 江戸時代中期～後期 | |
| 6 | | くろうるしぬりたちばなもんまびしゃく 黒漆塗橘紋馬柄杓 | 1本 | 江戸時代中期～後期 | |
| ◆華麗な馬具と種々の道具 | | | | | |
| 7 | | きんなしじきりたちばなもんまきえくら 金梨地桐橘紋蒔絵鞍 | 1背 | 桃山時代 | 彦根藩井伊家初代の直政所用と伝える。 |
| 8 | | きんなしじたちばなもんほうちわもんまきえくら 金梨地橘紋羽团扇文蒔絵鞍 | 1背 | 江戸時代前期 | 居木裏に「東城(花押)」、「寛文拾一年(1671)二月吉日」と墨書する。 |
| 9 | | きんなしじえだたちばなもんまきえくら・あぶみ 金梨地枝橘文蒔絵鞍・鐙 | 1具 | 江戸時代中期～後期 | 居木裏に「通綱(花押)」、「寛永五年(1628)二月吉日」と彫る。 |
| 10 | | くろうるしぬりぎんいげたもんはめこみくら 黒漆塗銀井桁紋嵌込鞍 | 1背 | 江戸時代後期 | 居木裏に「(花押)」、「万治二年(1659)五月吉日」と墨書する。 |
| 11 | | きんなしじぼたんからくきのうどうぐもんまきえくら・あぶみ 金梨地牡丹唐草能道具文蒔絵鞍・鐙 | 1具 | 江戸時代中期～後期 | 居木裏に「花押」、「慶安二年(1649)十月日」と彫る。 |
| 12 | | ぎんいかげじしつぼうちきりもんくら 銀沃懸地七宝袈文鞍 | 1背 | 江戸時代中期～後期 | |
| 13 | | くろうるしぬりたけまきえくら ふぞくひん 黒漆塗竹蒔絵鞍および附属品 | 1具 | 江戸時代中期～後期 | |
| 14 | | じゅうもんじくつわ 十文字轡 | 1個 | 江戸時代 | |
| 15 | | ぎんたちばなもんせんこくしおで 銀橘紋線刻鞍 | 1式 | 江戸時代 | |
| 16 | | くろうるしぬりむち 黒漆塗鞭 | 3握 | 江戸時代 | |
| 17 | | くろうるしぬりかわおおり 黒漆塗皮障泥 | 1背 | 江戸時代 | |
| ◆拝領の馬具 | | | | | |
| 18 | | くろうるしぬりあおいもんきくまきえくら・あぶみ もくろく 黒漆塗葵紋菊蒔絵鞍・鐙および目録 | 1具 | 江戸時代中期～後期 | 居木裏に「政也(花押)/㊦」、「寛文二年(1662)五月三日/㊦」と彫る。寛政9年(1797)に井伊家11代直中が、将軍家から拝領。 |
| 19 | | くろうるしぬりあおいもんきんぎんまきえくら 黒漆塗葵紋金銀蒔絵鞍 | 1具 | 江戸時代 | 居木裏に「政也(花押)/㊦」、「慶安5年(1652)五月三日/㊦」と彫る。将軍家からの拝領品とみられる。 |
| 20 | | あおいもんつきくろらしゃくらあおい 葵紋付黒羅紗鞍覆 | 1背 | 江戸時代 | |
| 21 | | くろうるしぬりぎんからはなまきえうつしぐら・つばあぶみ ふぞくひん 黒漆塗銀唐花蒔絵鞍・壺鐙および附属品 | 1具 | 江戸時代後期 | 元治元年(1864)に井伊家14代直憲が、朝廷から拝領。 |

※すべて彦根城博物館が所蔵する井伊家伝来資料。

写真解説

*番号は作品リストと一致しています。

5 黒漆塗 橘紋蒔絵鞍・黒漆塗 鐙 1具

前輪高 26.4cm 後輪高 25.4cm

江戸時代中期～後期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

全体を黒漆塗とした鞍と鐙で、鞍の正面と背面には、彦根藩井伊家の家紋である丸に橘紋を金蒔絵で表します。このような黒漆塗に家紋のみを表すものは、江戸城への登城をはじめとする公務の際に用いられた式正の馬具と考えられています。井伊家伝来の馬具には、同様の鞍が多く含まれており、中には鞍の内側に朱塗や金梨地で仕上げたもの、鐙にも家紋をあしらったものが見られることから、式正の鞍にもいくらかのバリエーションがあったと推察されます。



9 金梨地枝橘文蒔絵鞍・鐙 1具

前輪高 27.9cm 後輪高 29.2cm

江戸時代中期～後期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

鞍と鐙の全面に細かい金粉を蒔いて梨地とし、井伊家の家紋のモチーフである橘を金銀の蒔絵で表しています。江戸時代は漆芸の発展に伴い、従来より華麗な装飾が施された蒔絵鞍が数多く制作されました。本作の枝や実、漆を高く盛り上げて肉厚に形成し、さらに数種の金銀粉を使い分けることで、橘の実がたわわに実る様子を効果的に表現しています。なお、本作の居木裏には「寛永五年(1628)二月吉日」の年記を刻みますが、橘の造形や蒔絵の特徴から、江戸時代中期以降に加飾されたものと考えられます。こうした古材を用いて新たに装飾を施したとみられる例は、しばしば見ることができます。



13 黒漆塗竹蒔絵鞍および附属品 1具

鞍：前輪高 25.1cm 後輪高 29.2cm

江戸時代中期～後期

当館蔵（井伊家伝来資料）

前輪と後輪の外側に黒漆を塗り、金銀の蒔絵によってしなやかな竹を描いています。前輪と後輪の縁および居木の両端は金蒔絵の覆輪、鞍の内側は、銀粉を密に蒔いた沃懸地とし、黒と金銀のコントラストが際立つ一背です。この鞍の前後には、環状の鞆が付いており、ここに鞆などの幅広の組糸を通して、鞍を固定します。本作には、鞍の上面に坐る際に敷く鞍褥、鞍で馬体を傷つけないよう鞍と馬との間に敷く鞆、鐙を下げる力革も伝わり、江戸時代に乗馬で用いた主だった馬具が揃っています。



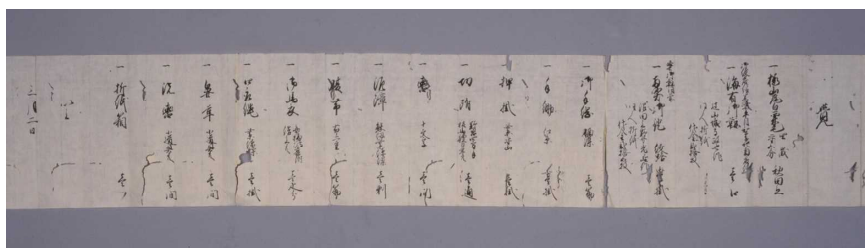
18 黒漆塗葵紋菊蒔絵鞍・鐙および目録 1具

前輪高 26.6cm 後輪高 29.5cm

江戸時代中期～後期

当館蔵（井伊家伝来資料）

将軍家から井伊家に下賜された馬具。黒漆を塗った表面には、将軍家の紋である三葉葵と不老長寿あるいは武運長久を象徴する菊が、金銀粉をふんだんに使って描かれています。寛政9年（1797）3月、井伊家11代の直中（1766～1831）は、将軍家の世継ぎである徳川家慶の元服式において加冠役を務めるとともに、種々の品を献上しました。これに対する返礼の品が、「桜山尾白栗毛馬」とこの鞍と鐙を含んだ馬具一式です。この折に拝領した品の目録も伝来しており、馬具の具体的な種類が分かります。



【参考】

◆部分名称

